

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590700076		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく 3号館		
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20		
自己評価作成日	平成28年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族の方からお話を聞きながら、利用者様の生活歴や出来ることを生かし、ホームでの生活を楽しめるような支援に努めております。職員は常に笑顔と穏やかな表情で利用者様と接するように心掛け、利用者様全員が参加する行事に加え、個々のニーズに合わせた外出支援にも取り組んでおります。また、地域の清掃活動に参加したり、地域の方々にホームの行事に参加して頂くなど、交流も深めております。火災時の自動通報装置への登録や非常災害時の避難場所として提供など地域の方のご理解ご協力も多くなってきました。24時間自動換気型の空調システムと全館バリアフリーにより、快適で安全な生活の場を提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区の清掃活動やホームの行事を通じて地域との繋がりも深まり、災害時の連携についても協力が得られる体制になってきています。高齢の利用者が増えてきた現状を踏まえて重度化した場合や終末期の対応について検討され、医師と連携を図って体制を整え、家族の希望に沿い、且つ協力を得ながら支援できるよう取り組まれています。「その人の望む生活をかなえてあげるのが私たちの仕事」と利用者ができることを尊重して共に取り組み、生きがいを持って暮らせる支援を心がけています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、個々の目標を決めたり毎月の目標を決めて実践に向けて取り組んでいる。ケアプランにも反映させ、利用者様との関わりにも生かしている。	職員がそれぞれ目標を設定し、利用者が楽しく充実した生活が送れるよう努めています。自由に過ごす方やさりげなく家事を手伝う方、職員が将棋の相手をしたりと共に生活を楽しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご利用者様と散歩に出た際は気軽に挨拶を交わすことができる環境になっている。子供の会の廃品回収や、地区の側溝清掃などにも参加し交流を深めるようにしている。	ホームの行事や地区の清掃作業等で交流されています。新興住宅地でもあり、日常的な交流が難しい中で運営推進会議やさまざまな機会を捉えて地域と繋がりが持てるよう努力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通して認知症の方の現状を伝えるとともに、ホームでの生活経験の中から支援の仕方について情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者様の状況や行事の報告をし、会議に参加した職員をはじめ、会議の議事録等で情報を共有し、ユニットミーティングで議題にするなどサービスの向上に努めている。	地域の方が多く参加されていることから、ホームの現状を伝えながら意見を出していたり、認知症やホームの理解に繋げていけるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進会議、グループホームネットワーク会、各種研修会などを通じて市町村担当との連携や協力関係が取れるようにしている。	各種の会議に行政が参加している他、疑問点があれば相談する等、連携しながら利用者の支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種研修、社内研修などで身体拘束についての理解を深めるとともに、その時の状況に応じてどうすることが身体拘束にあたるのかなど話をしている。	研修や実践を通して職員一人ひとりが認識を持って身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に自施設での研修を行い、虐待が見過ごされないような環境づくりに努めている。職員間でも気になることがあったらお互い注意し合える関係性を築けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修で学ぶ機会を持つようになっているが、活用されている利用者様はまだいっしょらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ったうえで、疑問点等を尋ね納得していただいている。事前に見学していただき、グループホームを理解した上で入所できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価時におけるアンケートの実施に加え、日常的に意見や要望を聞き入れて改善できる体制を取っている。ご家族からの要望等があった場合は必ず職員に伝え改善できるように取り組んでいる。	利用者、家族が意見を言い出しやすい環境をつくることに努め、面会時や電話連絡時等に引き出すようにしています。対話の中から要望を聞き取り、反映できるように取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティングやユニットミーティングの他にも日常的に意見が言える状況を築けている。各職員から出された意見を調整会議で代表者に伝えている。	管理者、職員は日常的に話し合う機会があり、随時あるいは法人会議に諮りながら反映させています。子育て中の職員に配慮した勤務環境を検討する等、新たな取り組みも行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境に応じたシフトの配慮をしたり、研修参加に対しての配慮など環境改善に取り組んでいる。子連れ出勤の取り組みも試行中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じて研修への参加ができています。資格取得に向けて、研修の受講費の助成をしていただくなど協力体制ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修を通じて交流が図られており、介護サービスの向上につながっている。研修報告を通じて情報共有も出来ている。管理者のみならず、職員の研修会の開催も検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してホームで暮らせるように要望等を傾聴し、ご本人様を知ろうと努め情報を職員で共有し良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様、ご家族様が不安が残らないように相談、要望等を聞き、安心感を持っていただけるような関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様を人生の先輩として敬うことを忘れず接し、手伝っていただけること、できることを大切に、作業する時は職員と共にコミュニケーションを図りながら行うようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	しやくやく通信でホームでの現状をお伝えしている。行事や面会、電話などでご家族の思いを把握し、その会話の中からご本人様を知る機会を増やししながら、共に支えていく関係作りに努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得たうえでなじみの方々と御面会いただいている。また電話もしていただいている。家族と外出したり、かつてのお弟子さんの美容院に行ったりしている。	これまでの生活の延長線上にあるように、一人ひとりの生活習慣を尊重した支援が行われています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	得意分野を生かし、裁縫やブローなど他の利用者さんの為にしたり、気の合うご利用者様同士が常に関わりあえるように支援している。いろいろな行事に参加したり、レクレーションなどで交流を深めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられて退居された方のご家族が、時々遊びに来てくださる。繋がりが途切れぬような対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの方に合った生活ができるように可能な限り支援している。思いや行動を記録することで、本人の意向に沿うように努めている。	共に生活する中で思いの把握に努めています。記録に残して情報を共有し、介護計画に反映させています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などはご家族やご本人からも普段の会話から聞き出し把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、業務日誌やケース記録に状況を記録している。状態の変化については日々のケース記録等で全職員が共有し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員の気づき、日々のケース記録を参照し、毎月モニタリングを行っている。それをもとにご家族様からも要望を聞きケアプランを作成している。	担当職員が中心となってモニタリングし、今必要なことは何かを話し合っって介護計画を作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌で情報を共有し、特に変わったことなどあった時は必ず申し送りし、その後の支援に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアのマッサージを受けたり、出張してきてくださる近所の散髪屋さんなどでリフレッシュできたりしている。スーパーに買い物に出かけるなど日常生活を楽しめるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、歯科医、薬局等との協力体制ができており、利用者様の希望や体調等を考慮した支援ができています。月2回の往診に加え、体調不良の時は通院し、適切な医療が受けられるようにしている。	訪問診療があることから協力医に変更された利用者もありますが、入居前からの医療機関で継続して受診される方もあり、希望に沿って支援されています。家族には診療結果を報告されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月2回訪問してくれており、気軽に相談等出来ている。状態によっては受診につなげるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院のカンファレンスにはご家族の了承を得て同席し、現状や今後の方針について確認している。医師のみならず、看護師とも連携できるよう働きかけ、早期に退院できるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を聞きながら、主治医と相談し重度化した場合の対応について確認している。	ホームとしての対応方針を検討し、希望に沿った支援ができるように体制を整える努力をされました。ホームでできることや家族の協力が必要なことを理解していただき、状態の変化に伴った対応ができるよう取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習会に参加し、転倒骨折の際の対応や、意識不明になった時の対処、窒息時の対応、止血の方法などを学び実践できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得ながら、避難訓練を行っている。自動火災通報装置の設置に加え、地震や火災など様々な場面設定での訓練を行っている。地域の方に避難場所として自宅の一角の提供の了承も得ている。	訓練には地域の方も参加されています。ご近所の協力を得て二次避難場所を確保し、法人間で連携して最終避難先を決め、予備の車椅子も準備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として尊重し、一人一人に合った対応を心がけ、不快に感じない言葉遣いや、態度、声のトーンを意識して接するように心掛けている。	利用者の気持ちを大切に考え、できることを尊重しています。話し方や入浴時の同性介助に配慮した対応をされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ選択してもらえるような場面設定を心がけ利用者の意志によって決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、対応に心掛けている。外出したいと訴えられる利用者様に対しても出来るだけ時間を作って対応するようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の行きつけの美容院へ出かけてパーマや毛染めをしたり、普段着る洋服なども自己決定できるように支援している。希望する方にはマニキュアを塗ってあげたりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好き嫌いや嘔吐しやすいものなどを把握し、利用者さんに合わせた食事を提供している。食事の準備や片づけなど利用者様から積極的に手伝いに来てくださり日常的に一緒に行っている。	夕涼み会等、行事の際には趣向を凝らし、楽しく食事ができる場面づくりをされています。食材の買い物にも一緒に出かけ、誕生日には本人の食べたいものが食卓に並びます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録を参照し水分量の少ない方へはスポーツドリンクや、好みの飲み物で対応するなど水分確保に努めている。体調不良で食欲のない方にはご家族の了承を得て食べたいものを購入し栄養摂取できるように支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや場合によっては介助にて清潔保持に努めている。就寝前は義歯洗浄剤を使用し(週2回)清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムをつかみ、声掛けなどでトイレ誘導することで失禁を減らすようにしている。夜間はポータブルトイレを利用するなどトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	一人ひとりのパターンに応じ、トイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様に合わせた形態での食事を提供し、水分摂取してもらえるように努めている。適宜便秘薬の服用も行っている。テレビ体操やラジオ体操も取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や健康状態を把握し間隔があかないように、なおかつ希望に添えることができるようにしている。特定の職員でないと入らない利用者様の場合は業務を交換し入浴介助にあたることもある。	拒否される方もなく、利用者の状態を見ながら1日おきの入浴を基本に支援されています。車椅子の利用者も浴槽に浸かっており、一人ひとりに合った支援をされています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テーブル席で居眠りしている方への昼寝の声掛けや寝床で不安を感じられる方には職員が近くにいるソファで休養にいただくなど、柔軟に対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬写真で処方時毎に確認している。疑問に思っていることがあれば、薬局に確認するなど、服薬支援に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事など、利用者様の力量に合わせてお手伝い頂いている。散歩や将棋、ぬり絵、読書など、自分がしたい時に自由にできることで、気分転換にもつなげている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近隣散歩は行っている。本人の希望を聞いて、芝居見学や外食など外出先の施設の方の協力を得ながら支援している。買い物同行もしていただいている。	日常の外出としては近所を散歩したり、食材の買い物に出かけており、家族の協力もあります。季節に合わせて遠出をする時には、利用者が車椅子を押してあげる場面もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為各利用者様の現金所持はないが、買い物時に見守りにて支払いをお願いすることはある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの要望があれば、子機を使用していただき、お部屋でゆっくり話をさせていただくなど、プライバシーにも配慮し、日常的にできる環境を提供している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく暮らせるようにきれいに掃除するよう心掛けているとともに、においや眩しすぎる光に対してなど不快な思いをしないように配慮している。行事の写真を廊下に張ったり、洗面所に花を飾ったりして楽しんでいただいている。	全館バリアフリー構造であり、玄関には長椅子を置いて靴の脱ぎ履きに便利のように配慮されています。浴室は洗い場が広く、浴槽も介助しやすい位置に設置されています。ひな壇等の飾り付けを法人内で融通し合い、季節を感じ取っていただいています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置して自由に過ごせる空間作りをしている。ソファでテレビを見たり、テーブル席で本や新聞を読まれたり、思い思いに過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用されていた物を居室内に配置することで自分の部屋だと認識でき、安心していただいている。	中央に畳が設置された居室は、利用者と家族がゆっくり過ごせる配慮がされています。自分で居室の管理をされている利用者もあり、自立心を損なわないよう対応されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下、トイレ浴室には手すりが完備されている。できない部分をお手伝いし、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。適宜センサーを活用し、転倒予防に努めている。		